

授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 藤井 俊之					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	独書講読 II										
【授業の概要・目的】											
Theodor W. Adorno: Zur Lehre von der Geschichte und von der Freiheit(2001)を読む。											
自らの足場を伝統的規範に求めることのできなくなった近代以降の市民社会において、それを補うものとして構想された歴史哲学は、人間の進歩を自由のそれと同一視できるものと考えようになった。こうした歴史把握は、ホブズやルソーの社会契約説、あるいはカント、ヘーゲルに代表される歴史哲学的構想に示されている。しかし、20世紀の二つの世界大戦に直面した人々にとって、人間の歴史が必然的に自由を実現するという考えは、無批判に受け入れることのできないものになってしまった。今回取り上げるテキストの著者アドルノは、ユダヤ系の出自の故に第二次大戦中は故国を追われた亡命知識人の一人であり、彼もまたこうした一致を単純に認めるわけにはいかなかった。授業では、彼の講義録(1964/65)を講読することで、20世紀以降の現在において、歴史の必然性と人間の自由の一致をどのように考えるべきかについて理解を深めたい。											
【到達目標】											
必要分野での文献を読み解けるドイツ語の読解能力を養う。また、文献に現れる引用の読解を通じて、テキストの背景となる歴史的事象を考慮することを学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第一回目にイントロダクションを置いて、その後の授業はテキストの訳読を中心に進める。その際に、全員が一度は担当を持つようにする。授業は15回全てを読解にあて、最後に、全体の総括として期末にレポートを課す。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点と期末レポートで採点する。授業の際には各自が必ず訳読を担当することが求められる。それを踏まえて、期末レポートで各自の理解を測りたい。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
授業に備えて予め文献のドイツ語の予習をすることが必要である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											